第1学年　社会科学習指導案(地理的分野)

日　時　平成２７年１０月２９日（木）公開授業Ⅲ
生　徒　１年１組　男子１５名　女子１７名　計３２名
指導者　畠山　博憲

１　単元名　オセアニア州

２　単元について

（１）教材について

学習指導要領の社会科改訂のポイントに「思考力・判断力・表現力の育成を重視すること」があげられる。その達成には、社会的事象や問題を「知る」（資料活用の技能）活動とともに「わかる」（思考力）ことと「社会に生きる」（判断力）ための問題を解決していく活動、そして解決した情報を発信していく（表現力）活動が必要である。そこで、本単元では「資源と人々のつながりのありよう」を主題とし、「思考力・判断力・表現力」を育む一つの活動として、様々な地図やグラフから地理的事象を読み取り、それを比較したり関連付けたりする。

すなわち地図やグラフを有効に活用することで、世界の諸地域の地域的特色を理解することに重点を置きたい。地図やグラフは、様々な地理情報からなりたっており、それらの情報の分析や関連を探ること（読図）、必要な情報を明らかにしたり、関連づけて段階的にまとめたりすること(地図化)が可能である。地図やグラフを有効に活用して、取り上げた具体的な事象をまとめることで、その地域の特色として一般化することができるであろう。

さらに、それを仲間に発信したり、共有したり、学び合い活動を行ったりする活動を充実させて、思考力・判断力・表現力の育成を育みたい。小学校では、世界の主な国の名称と位置を地図帳や地球儀などを使って調べ、白地図などに産業の分布の様子を学習してきていることを踏まえ、それを発展させていきたい。

（２）生徒について

社会科に関する興味･関心が高く、５月のhyperQ-Uでは、非承認群が５名　侵害行為認知群が２名と少なく、満足群にまとまりがあるクラスである。このクラスは社会が好きな生徒が53,1％、嫌いな生徒は25,0％いる。好きな生徒のうち、地理が好きな生徒は34.4％であり、「人口」「面積」「気候」などの特色を知るのが好きとのことである。地理を苦手としている50％の生徒は、その理由として「覚えることが多い。」という声が圧倒的に多い。

そのことから、知識・理解において世界地理に関わる用語の習得を苦手としている。そこで、最近貿易で取引の多くなっているオーストラリアを取り上げて興味･関心を誘い、授業に集中させていこうと考えた。オーストラリアの地理的事象について知っている生徒は、「首都キャンベラ」「オセアニア州」「温帯」程度しか知らない現状である。社会に興味・関心が強い割には、地理についての具体的な認識度が低い状態である。

（３）指導にあたって

１学期の歴史的分野において身近な新渡戸稲造への認識度が低いこともあり学習指導要領[歴史的分野]２の内容(1)のアの歴史のとらえ方において「調べ学習」を通して、各自が習得した知識を意見交流の中で共有化しつつ生徒の思考力・判断力・表現力を高め、校訓の【自治】を意識化させてきた。

また、このクラスは社会科の学力が高いが授業への積極的な参加が低く感じられたので積極的な参加を涵養する上で、KJ法を使った小グループでの活発な意見交流や全体での発表の場を設けてきた。今回の地理的分野においては、学習指導要領【地理的分野】１の内容（2)「諸条件の変化などに伴って変容していることを理解させる。」ことの目標に則り、オーストラリアという学習教材を通して社会的事象の意見交流を活用した方法でそれを文章表現で「振り返る」手段として活用していき，世界の諸地域の学習を通して様々な地域の特色を把握する力を身につけさせたい

３　単元の目標

○世界の諸地域について，各州に暮らす人々の生活の様子を興味をもって調べることができる。　【関心・意欲・態度】
○地理的事象をもとに主題をもうけて，それぞれの州の地域的特色を根拠をもとに論述することができる。
【思考・判断・表現】
○オセアニア州と他地域との貿易のグラフなどから輸出入の変化を読み取り、活用することができる。　【資料活用】
○オセアニア州が白豪主義から多文化社会へ変化したことを地域的なつながりから理解することができる。
【知識・理解】

４　指導計画（第３章　世界の諸地域　６節　人々によるアジアとのつながり：３時間扱い　本時３／３）

次	時数	学　習　活　動
一	1	・オセアニア州をながめて
	1	・資源によるアジアとのつながり
	1	・人々によるアジアとのつながり（本時）

5　本時の指導について

（１）目　標

オセアニアとアジアの結びつきはどのように強くなってきたのかを資源や人々とのつながりを中心に思考し、判断しながら社会的事象の語句を使って表現する。

（２）評価規準

観　点	B　おおむね満足できる	Bに到達させるための手立て
思考・判断・表現	オセアニアがアジア諸国と資源を通して結びつきを深める中で、働きやすい環境としてアジア州からの移民が増えていることを文章表現している。	白豪主義から多文化社会へ変わろうとしている現象を理解させる。

（３）指導の構想

・オセアニアは，日本に様々な食料や鉱産資源を輸出しており、生徒の関心を高めやすい。
・1時間目で輸入品から日本との結びつきの強さを捉えるとともに国旗からイギリスとどのような結びつきがあるのか気付かせてきたことからの見通しを立てる。
・既習事項のグラフなども活用しながら「貿易相手国の変化」オーストラリアの「輸出入品目の変化」「牛肉・羊毛・小麦の輸出割合」「白豪主義」「多文化社会」などのキーワードから意見交換する中で文章表現でまとめる。
・他の人の文章表現による感想や考え方から自己思考との変容と納得について気付かせることをもって「振り返る」としたい。

（４）展　開

段階	学　習　活　動	指導形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点（方法） ☆見通す・振り返る活動
導入 10分	1　本時の学習内容の確認をする。 2　移民のグラフの読み取る。 3　学習課題を設定する。 なぜ、オセアニアはアジア州からの移民が増えてきたのだろう？	全 全	☆ハンバーガーと大手牛丼屋の共通点を考えさせる。 ○牛肉であることに気付かせる。（前時の想起） ●アジアの移民数の変化から学習課題を持つことができる。（発言）
展開 25分	4　予想を立てる。 5　資料から貿易先が変化したことを読み取る。 6　各自まとめてきたことをもとの班で発表し合い、原因を追及する。 7　班ごとにまとめを発表する。	全 グ 全 グ	☆貿易相手国が変わってきたのではないか。 ○なぜ、変わったのかに気づかせる。 ○ジグソー学習で資料5～6つから読み取りをさせる。 ☆オセアニアの輸出入の変化や貿易相手国の変化と輸出入品目に変化があったことを意見交流し、理解する。 ○白豪主義と多文化社会について調べた班に付け足しの意見を求める。 ○白豪主義から多文化社会への変化に気付かせる。 ●アジア州からの移民が増えた理由が資源の輸入国の変化に伴う働きやすい環境に基づいていることと発表できる。
終末 15分	8　まとめる。 アジア州からの移民が増えている理由は、オセアニア州が近くて貿易がしやすい国へと変化し、白豪主義から多文化社会へと移行しているから。 9　本時の学習を振り返る。 アジア州に近いからだけでなく、アジア州との時差があまりなく季節が逆であるから観光客が増えた。	個 個 全	☆自分の考えを文章表現する。 ☆自分たちの班が知り得たこと以外でわかったことを付け足し記述していく。 ○もっと知りたいと思ったことをノートに記述させる。（ノートを回収する。） ○シドニーオリンピック（キャシー・フリーマン（アボリジニ）について知らせる。